

千曲市様の持続可能性を
広報・公聴の弱点を補完する
「行政コミュニケーションの最適化」で
実現する双方向参加型地域経営インフラ
「ポリネコ！」



ポリネコ！



2021年9月

概要説明資料

株式会社ハンマーバード 代表
慶應義塾大学SFC研究所 上席所員
岩田崇

takashi@hammerbird.jp

東京都品川区荏原6-2-5-5F

・DX = 個を起点とする社会へのシフト

一般的に、DXとは買い物や手続きが簡単、便利、早くなることだと思われていますが、それは90年代のIT革命の焼き直しに過ぎません。データに人が従属させられるリスクにも無防備な認識です。

DXの本質は、社会の隅々へのICTの浸透によって、個を基点とした環境構築が行えること、手間のかかる作業の最小化によって私達人間が思考と新しいチャレンジを行う余裕を最大化することにあります。

住民と継続的に繋がり、データも援用しつつ、住民サービスの質の向上、地域の持続性の向上で還元することが、自治体DXの本来の形です。

自治体DXを実現するための住民とのつながりを構築すること、つまり、コミュニケーションのDXを実現する仕組みと方法が『ポリネコ！』です。

『ポリネコ！』なら、できる持続可能性の確立&自治体DX

自治体DX = 行政コミュニケーションの最適化

1



GIGAスクール構想
「令和の日本型教育」に
対応する地域の教育環境
を実現できる

2



スーパーシティや
スマートシティに
不可欠な
『新しい住民参加』を
実現できる

3



関係住民や若年層、
子育て世代など対象
ごとの『声』を
継続的に聞き
分析できる

4



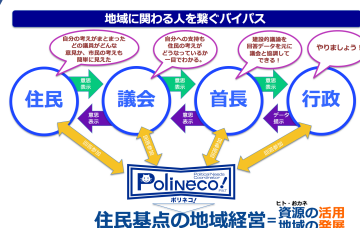
どこに人々の誤解や認知
不足があるかを把握して
改善につなげる
『新しい広報・公聴』が
できる

5



行政内部の情報&
ビジョン共有
による働き方改革を
実現できる

6



住民（関係住民）-行政
-議会がひとつの
コミュニケーションで
繋がり『納得解』が
実現できる

7



双方向⇔かつEBPMの
コミュニケーションに
より『信頼』形成を
実現できる

8



未来に向けた『投資』が
できる地域の
人々のネットワークを
実現できる

・DX = これからの地域に必要なコミュニケーション



従来型の
コミュニケーション

- ・ 一方通行
- ・ フィードバックがない
- ・ あまり楽しくない
- ・ インセンティブがない
- ・ ビジョン構築につながらない
- ・ 伝わっているか判らない
- ・ データやファクト確認は面倒
- ・ 知識の差を埋められない
- ・ 他の人と協調できない
- ・ 信頼を構築できない
- ・ 政策過程につながらない
- ・ 社会参画につながらない

いままで通りながら、
徐々に弱まる地域と社会

or



従来型の弱点を補い克服する
DX対応型コミュニケーション

- ・ 双方向
- ・ フィードバックがある
- ・ ちょっと楽しい
- ・ インセンティブがある
- ・ ビジョン構築につながる
- ・ 伝わっているか判る
- ・ データやファクト確認は楽々簡単
- ・ 知識の差を埋められる
- ・ 協調できる
- ・ 信頼を構築できる
- ・ 政策過程につながる
- ・ 社会参画につながる

未来に向けて挑戦し
持続性を高める社会

・ 従来型のコミュニケーション

行政視点

コミュニケーションを重視できない構造の常態化

- ・ 広報誌や掲示板、サイトの掲載がゴール（手段の目的化）
- ・ 誰が、どのように見ている、読んでいるか、把握する術がない
- ・ そのため、改善プロセスを機能させられない
- ・ 調査は基本的に一回限り（手段の目的化）
- ・ そのため、継続的なコミュニケーションがない/できない
 - 住民と継続的に向き合う術がない
- ・ 若い世代、その保護者をはじめ現役世代との接触が弱い
- ・ 住民と一緒に考えたくても物理的、空間的に困難
 - 数万人との対話は困難

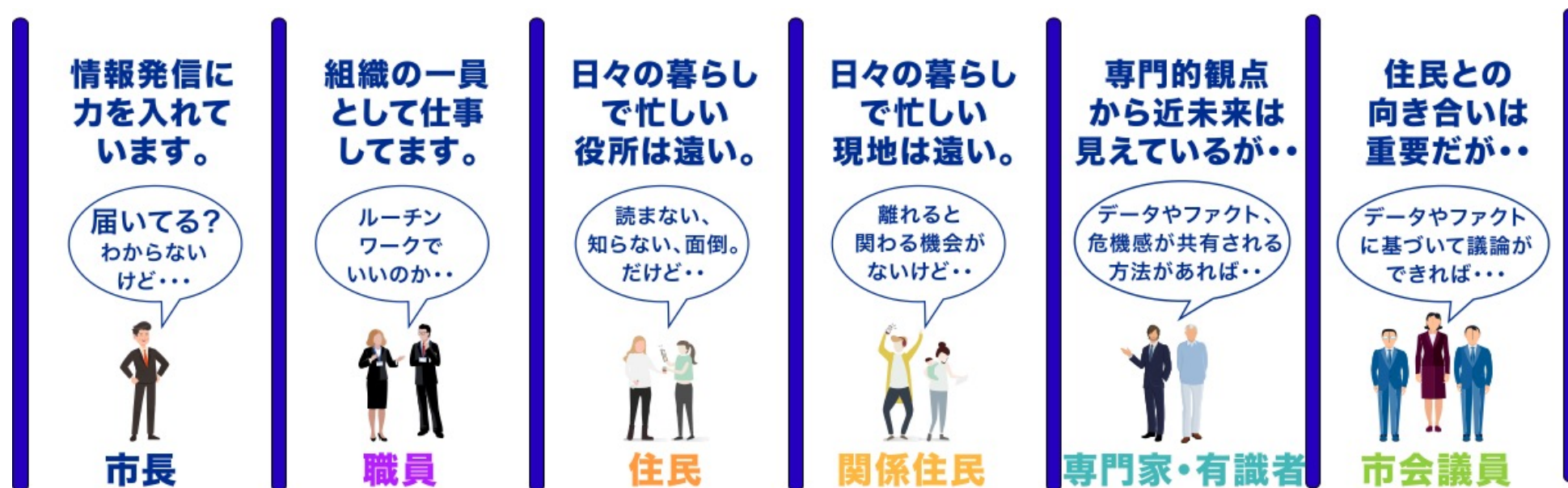
住民視点

自分が回答などの形で参画しても、地域が変わると思えない先入観

- ・ 何かに回答しても、それっきり（フィードバックがない）
- ・ 意見を言うためには、手間がかかる、その手間が報われると思えない
- ・ 何か連絡する時は、文句や要望になってしまう（課題解決をする機会がないため）

立場で隔てられている現在の情報環境

立場を越えて一緒に、情報を知り、学び、意思表示する機会が
実はない。（そのための技術/コミュニケーションがなかった）



行政-住民間で信用・信頼が育まれない
地域のヴィジョンが共有されない

・ 防災の場合－従来型のコミュニケーション

行政視点

コミュニケーションを重視できない構造の常態化

- ・ 広報誌や掲示板、サイトに防災情報は掲載しているが、住民にどの程度、届いているか**判らない**
- ・ 住民の認知や理解の程度に基づいたコミュニケーションを**企画、策定できない**
- ・ 個々人や地域毎の事情の把握が**困難**で、対策を**講じにくい**
- ・ 防災訓練やワークショップなど**参加機会に限度がある**
- ・ 現状把握ができないため、**目標設定が曖昧になる**

住民視点

自分が回答などの形で参画しても、地域が変わると思えない先入観

- ・ 何を知っておけばいいか**判らない**
- ・ 自分の困りごとや心配を伝える**方法がない**
- ・ まわりの人々の意見を知る**機会がない**

行政と市民が
連携した
防災体制の構築、
課題解決と改善が
困難



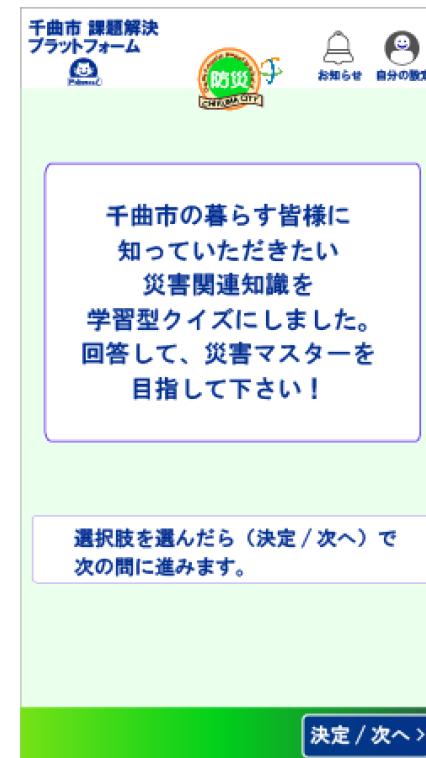
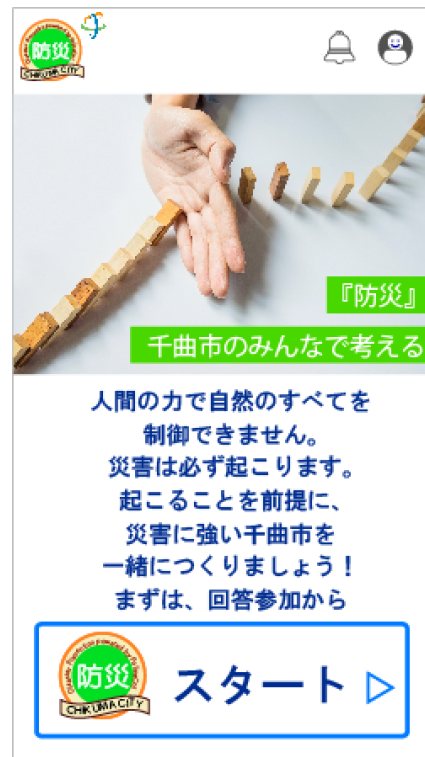
この状況を乗り越える



ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

千曲市サイト
広報活動



* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

③

 お知らせ 自分の設定

Q-1

1949年からの観測史上、千曲川が大雨で、増水した時の最高水位は、約何メートルでしたでしょうか？

3.5メートル

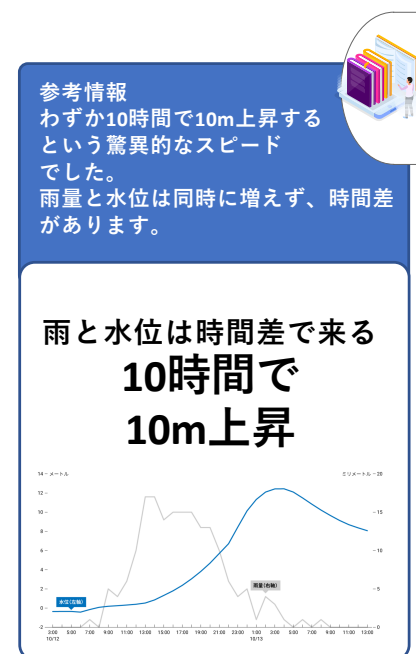
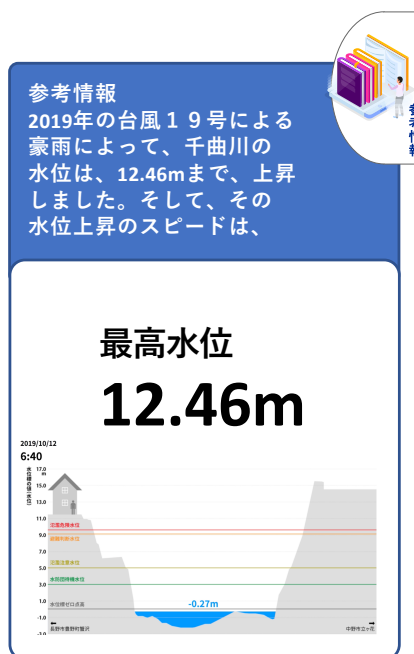
12.46メートル

5.34メートル

9.89メートル

18.23メートル

決定 / 次へ >



* 設問は仮設版であり、実装の際には災害担当の部局、地元の専門家の方々にもヒアリングを行った上で、マスター版を開発します。

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

④

お知らせ自分の設定

Q-2

あなたはいま、ペットと暮らす市民です。大きな地震のため、避難所（小学校体育館）に避難しなければなりません。しかし、ペットの（秋田犬）がいます。一緒に避難所に連れて行っていいでしょうか？

ペットは禁止

ペットは連れていける

ペットは連れていける、ただし普段から準備が望ましい

ペットは基本禁止、だが事前登録で許可されることもある

決定 / 次へ >

参考情報
ペットも大切な家族であり地域の一員です。避難所には、ペットも一緒に避難しましょう。でも、ペットへのアレルギーを持つ他の避難者の方々とも共存できることが大切です。そのために

基本OK



参考情報
日頃からの準備が、必要です。環境省からは、ガイドブックが発行されています。ペットを大切にされる方は、必ず、読んでください。

こちらから（リンク）



* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

⑤

Q-3

あなたはいま、避難所の運営担当者です。
避難所に600人が避難してきています。しかし、避難所に届いたおにぎりは400個だけです。
このおにぎりは配るべきと思いますか？

参考情報
阪神淡路大震災では、公平性を重視しすぎて、追加分が来るまで配給を止めて、目の前にあるおにぎり食べられない事態になったことがありました。1つを2つに分けるなどの工夫をして、体力低下を防ぐことが重要です。

待つと、体力低下
おにぎりも腐るよ



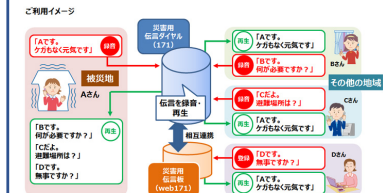
⑥

Q-4

災害用伝言ダイヤルは、災害発生時に基本無料で使える伝言録音と共有の仕組みです。お互いの電話番号を知っていれば、30秒のメッセージを最大20件送れます。番号は、以下のどれでしょうか？

参考情報
災害時には、電話が普通になったり、携帯電話の電池が切れてしまい、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。そうした時に171が役立ちます。

171



* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

⑦

防災
City-Wall-UP

お知らせ 自分の設定

Q-5

この災害用伝言ダイヤルは、災害発生時のサービスですが、利用できるのは、どのような時でしょうか？

災害時のみ

災害時に加え、月2回の練習日

災害時に加え、月2回と防災週間に設けられる練習期間

決定 / 次へ>

参考情報
171を練習する機会が
頻繁に設けられています。

遊び感覚でも試してみると
いざという時に安心です。

毎月1日,15日
正月三が日
防災週間
(8月30日9:00~9月5日17:00)
防災とボランティア週間
(1月15日9:00~1月21日17:00)

⑧

防災
City-Wall-UP

お知らせ 自分の設定

Q-6

東日本大震災以降、災害への心構えとして広まった言葉、「津波でんでんこ」という言葉の「てんでんこ」とはどのような意味でしょうか？

どんだん

それぞれ、各自で

あっちこっち

むちゃくちゃ、ひっくり返る

決定 / 次へ>

参考情報
「てんでんこ」とは、
それぞれ、各自でという
意味です。

てんでんこ
↓
それぞれ、
各自で

* 各画面は開発中のイメージ

回答を通じて、知る、学び、考える

10



ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

⑪

防災
ICHIOGA CITY

お知らせ 自分の設定

Q-9
災害発生時、お住いの場所の
安全確保が困難になった際の
避難場所は、どこですか？

決めていない、判らない

知人、親戚の家

最寄りの避難所

上記以外

決定 / 次へ >

参考情報
避難所だけが、避難場所
ではありません。
災害リスクのない安全な場所
に移動ができれば、そこが、
あなたの避難所にすることも
できます。

**避難場所は、
だれかと共有する
ことが重要です。**

⑫

防災
ICHIOGA CITY

お知らせ 自分の設定

Q-10
災害発生時の考え方として、
間違ったものを
1つ選んで下さい。

防災訓練の通り行動する

想定にとらわれない

どんな場合も最善を尽くす

自分の頭で考える

決定 / 次へ >

参考情報
訓練でやったことの
すべてが正解にならないのが
自然災害です。
この大前提から、防災訓練など
習慣や先入観にとらわれると
判断を誤る場合があります。

**災害は人間の都合
に合わせてくれま
せん。**

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 1
知り
学ぶ
考える

回答を通じて、知る、学び、考える

⑬



- ・ 正誤に応じた再回答（おさらい）
- ・ 誤解、認知不足がどこにあるかの把握
- ・ 理解度ごとの回答者クラスター
- ・ 回答クラスターごとの回答傾向把握
- ・ 傾向に応じた追加設問の設定

* 防災への理解度（地域や社会の課題に係る理解度）を、「正解のある設問」の正答率から表示

* おさらい機能で、理解度を高めることができます

* タイプ判定に進むには、理解度レベル60以上などの条件設定が可能

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 2
意思表示
する

回答を通じて、意思表示する

⑭

防災
お知らせ 自分の設定

Q-12

あなたは、千曲市における
防災と災害への対応は、市役所、
住民が、どのような関わりで行う
ことが、最も望ましいと
考えますか？

千曲市役所が主体となって行う

千曲市役所と住民と一緒に協働
して行う

住民が主体となって行う

上記以外の方法で行う

決定 / 次へ>

⑮

防災
お知らせ 自分の設定

Q-13

あなたは、千曲市役所と住民が
一緒に協働して行う、防災と災害
への対応に、サポーターとして
参加しますか？

サポーターとして参加する

サポーターとして参加しない

決定 / 次へ>

⑯

防災
お知らせ 自分の設定

Q-14

さっそくですが、千曲市防災サポ
ーターとして、防災や災害対応に
関する心配ごとや、判らないこと
があればお聞かせ下さい。
(特になければ”スキップ”を選択)

コメントを確認する

スキップ

タイプ判定へ

* データやファクトに基づく「正解のない設問」パート

* この  マークをクリックで、補足説明を表示（サポーターはメール登録からでもOKです等）

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 2
意思表示
する

回答を通じて、意思表示する

⑰

あなたの「防災」への考えタイプは、
千曲市の防災・災害環境を
市民と市役所協働で、
自分も参加して創る！
スーパー防災マスター
85 level
コメントを書く
SNSシェア
+ ポジティブ面からの解説
- ネガティブ面からの解説
← 回答をやり直す
シンクロを確認する

⑱

スーパー防災マスター
ご自身のタイプについて、そして、
千曲市の防災、災害への取り組みへの
ご意見やご自身が地域に共有したい体験
提案などありましたらお聞かせください。
特にない場合は（スキップ）で次に進み
ます。
いただいたコメントは、他の回答者の
方々にも記事やタイプごとの考えを
俯瞰する機能の画面で共有されます。
コメントを確認する
スキップ

- ・ 理解度×「考えタイプ」表示
- ・ 言葉、文章の投稿が可能

シンクロ
確認へ

- * 回答者の考えタイプを、地域や社会の課題への考え方、向き合い方を「正解のない設問」への回答に基づき表示
- * ポジティブ面、ネガティブ面の両方を示し、再回答でもできるようにします
- * 各画面は開発中のイメージ

ステップ 3 つながる

他の回答者につながる

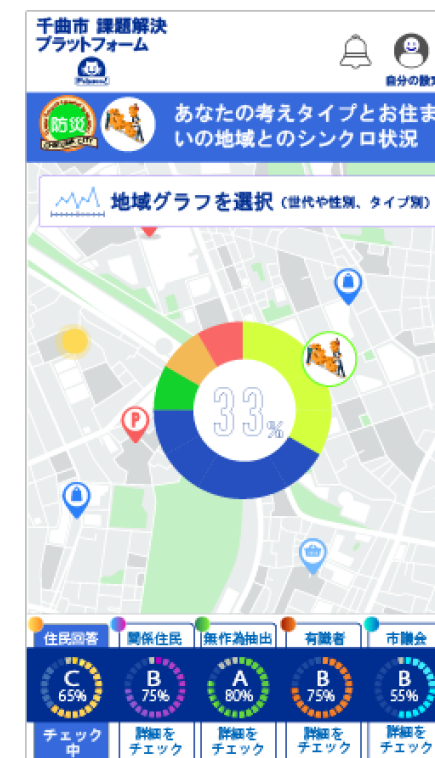
(19)



(20)



(21)



- * 自分の考えタイプと同じ考えの人が、各回答者のグループにどの位いるかをグラフで表示
- * ”詳細をチェック”から、同じ考えの人の割合、他の考えの人の割合をグラフで表示
- * グラフはリアルタイムに変化

* 各画面は開発中のイメージ

・地域コミュニティ 町内会単位など

- * 町内会、区単位などでの回答率のランキング表示も可能（ゲーム的なアプローチ）

ステップ 3 つながる

他の回答者につながる

(22)



* 議会とのシンクロ状況を表示

* 各画面は開発中のイメージ

(23)



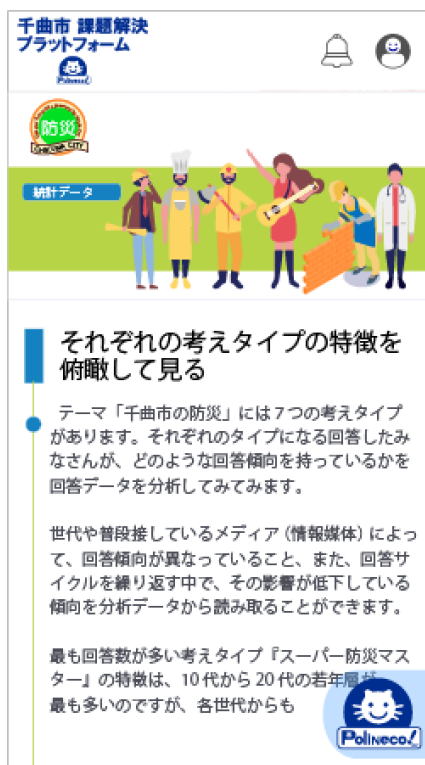
* 自分と同じ考えの議員及びその回答背景を読むことができます

* 同じ考え以外にも、自分とは異なる各考えタイプの議員や、政党、会派別の傾向、シンクロ状況を確認できます。

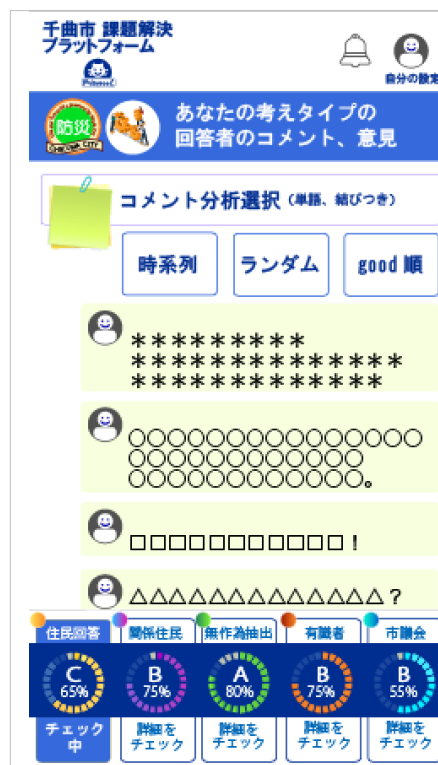
ステップ 4 俯瞰する

回答の背景、傾向を俯瞰する

(24)



(25)



- ・ 考えタイプのそれぞれのコメント、意見及びその集約分析を読むことで回答を俯瞰

* 画面①⑥、①⑧に入力された防災への困りごと、考えタイプの背景など、回答者のコメントを確認することができます

* テキストマイニングを行い、言葉の関わり、傾向の表示も可能

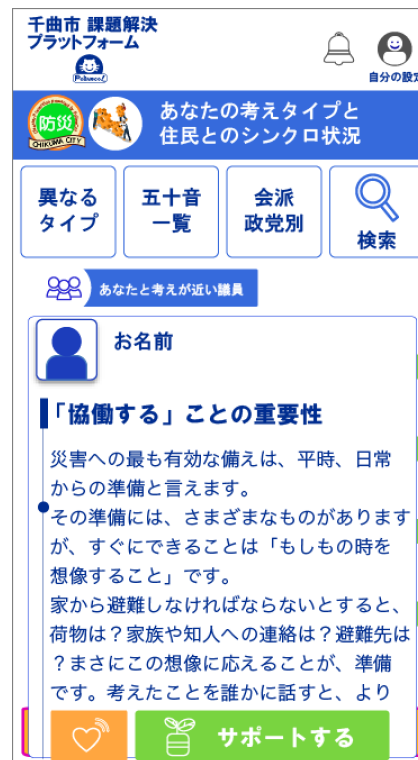
* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 5
行動する

回答を経て、行動する

(26)

(27)



- ・ 課題別に議員とつながる
- ・ コメントの投げかけなど
- ・ 読んで、サポート
- ・ 読まれ方の分析から改善へ

* 考えタイプが同じ人とは、価値共有認知でつながっている状態になります

* この繋がりから、議員との交流、サポートを行えるようになります

* 議員にとっても国民（小中高生も含め）にとっても、政策ごとの信頼関係を構築することができるようになります。

* 各画面は開発中のイメージ

ステップ 5
行動する

回答を経て、行動する

調査テーマについての
意思形成、合意形成を実現



メール配信
プッシュ通知

* 回答タイプや属性
(学生のみ、子育て世帯のみなど) に
応じたメール送信

- ・ 回答サイクルの運用
- ・ 考えタイプごとに設問を配信も

* 回答は一回で終わりではありません

* 回答サイクルが動き出し、考えタイプごとの設問配信、回答収集
などを経て最適解、納得解の形成をすすめます

* 「あなたは どうしたい？」を問い続ける、ソクラテスの対話法の
現代版です。

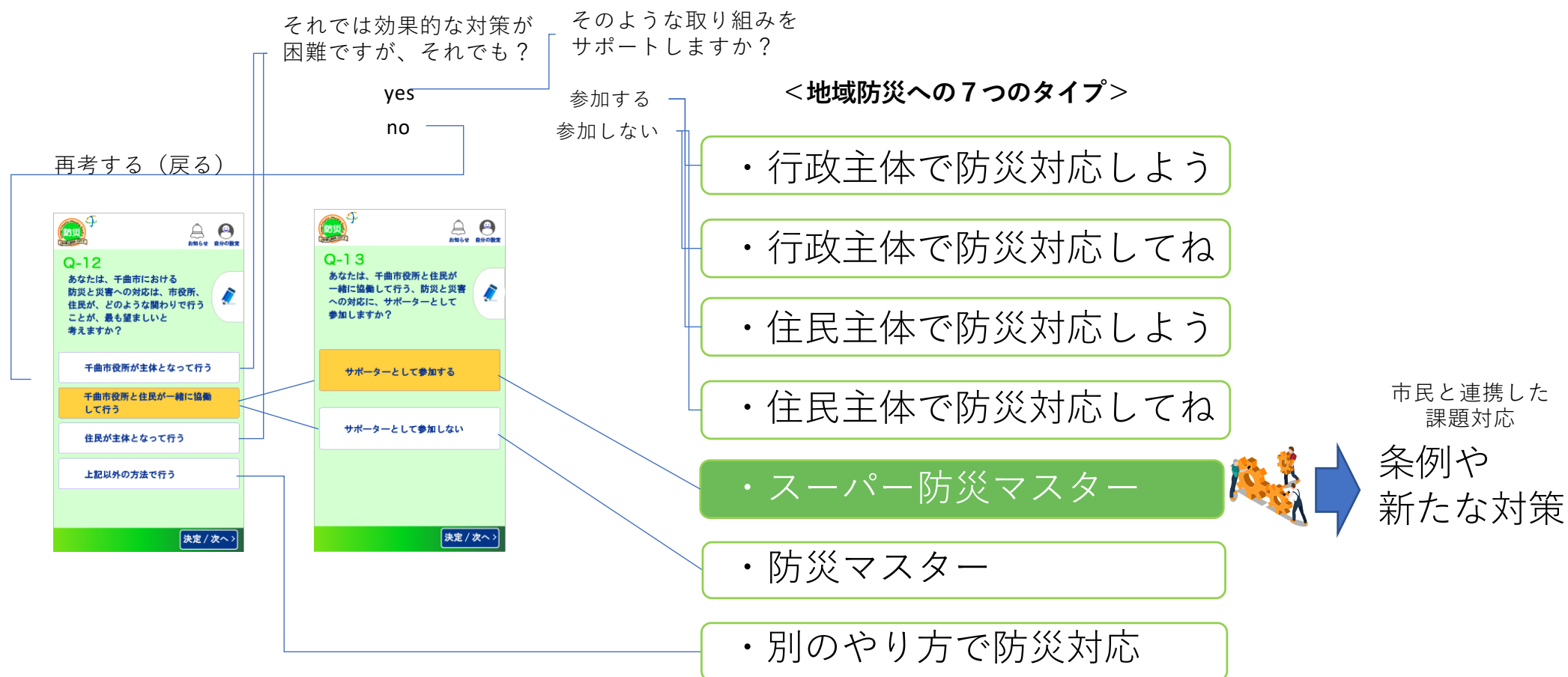
* 回答によるインセンティブを提供できます。(地域の場合は商工課などと連携など)

* また、回答参加を経て、無回答の議員への回答リクエスト、友人、知人への
招待発行を行います。

* 各画面は開発中のイメージ

タイプ判定ロジック構造

- ・ 防災、災害対応に対し、市民と市役所が協働するという自明のことであっても回答を通じて意思を確認し、自分以外の人々と同じ意思を確認することが地域に「信頼/TRUST」を生みます。
- ・ 回答参加で得られた意思、意見、データをもとに、新たな対策、条例などを効果的に講じることができるようになります。



特許取得の独自プロセスとは？

回答サイクルによる意思形成、成長する議論の基礎

- フィードバックのある、やりっぱなしにしないコミュニケーションサイクル
- 社会のヴィジョン構築にも対応できる継続的コミュニケーション
- 運営者（コントローラー）が明確であることによる、訂正の確実性

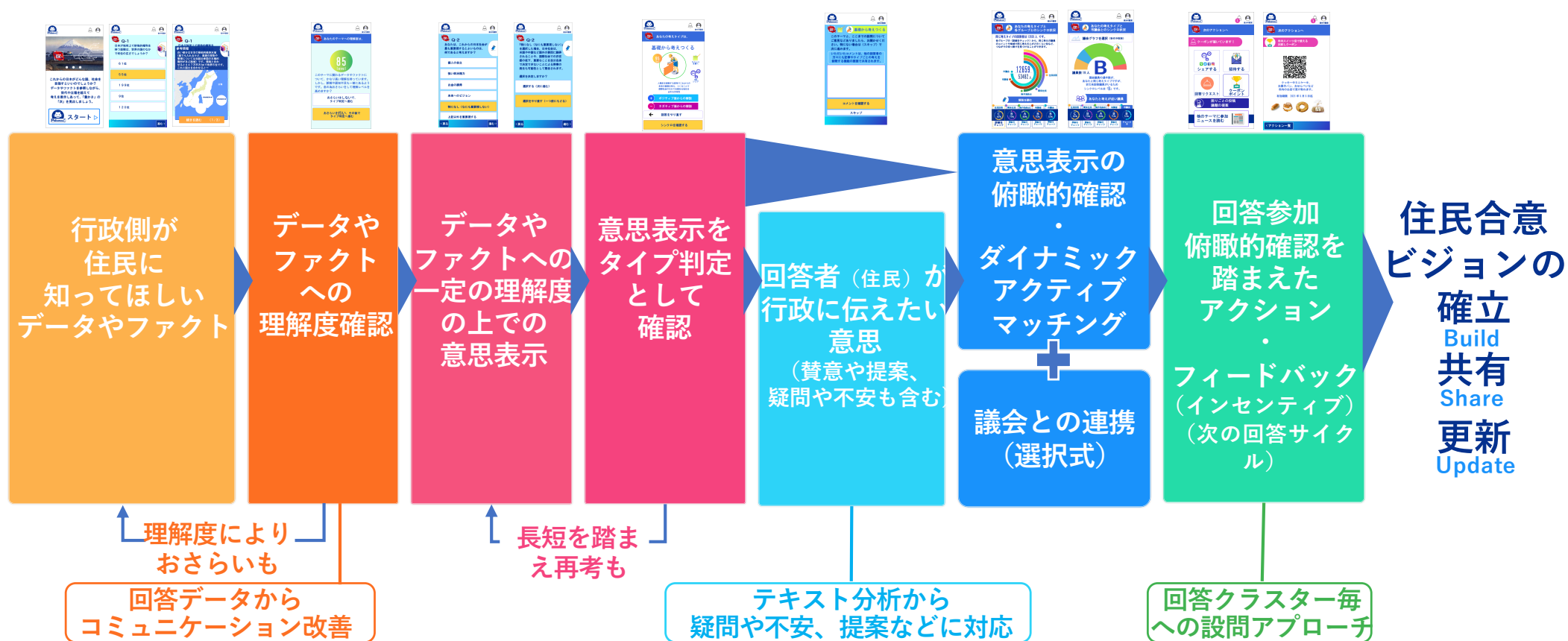
・『ポリネコ！』 5つのステップ



* 各画面は開発中のイメージ（コンセプト説明資料より）

特許取得の独自プロセスとは？ 回答プロセスの基本構造

- 相互理解のプロセスとして設計されたUX
- 各モジュールの組み方により、コミュニケーションプラットフォームとして運用し
既存の意識調査などに対応



実在性が担保された匿名回答（性別、年代、居住エリア、回答履歴）

回答参加者を増やすアプローチ

- GIGAスクール環境を活用し、児童生徒の防災活動の一環として、回答参加の機会を設けることで、千曲市の住民の20%を超える人々の参加を見込むことができます。
- この回答者の基礎に、広報活動で各世代の回答参加を増やすことで、数年で、全住民の半数の参加を見込む事ができます。
- 教育委員会、各学校への提案調整にも対応します。

GIGAスクールを起点とする回答参加者の基礎

$$\begin{array}{ccccccc}
 4831人 & + & \text{約}7800人 & = & \text{約}12600人 & = & \frac{\text{約}20\% \text{以上}}{\text{約}60000人中} \\
 \text{千曲市市内} & & \text{千曲市市内} & & & & \\
 \text{小中学校生徒} & & \text{小中学校生徒} & & & & \\
 \text{教職員数} & & \text{の保護者数} & & & &
 \end{array}$$

・ 防災の場合-DX対応型のコミュニケーション

行政視点

コミュニケーションを重視できない構造の常態化

- ・ 住民にどの程度、届いているか**判る**
- ・ 住民の認知や理解の程度に基づいたコミュニケーションを**企画、策定**できるようになる
- ・ 個々人や地域毎の事情の把握が**可能**となり、**対策を講じる**ことがしやすくなる
- ・ 参加機会にほとんど**限度がなくなる**
- ・ 現状把握ができるため、**目標設定が明確になる**



行政と市民が
連携した
防災体制の構築、
課題解決と改善が
可能に

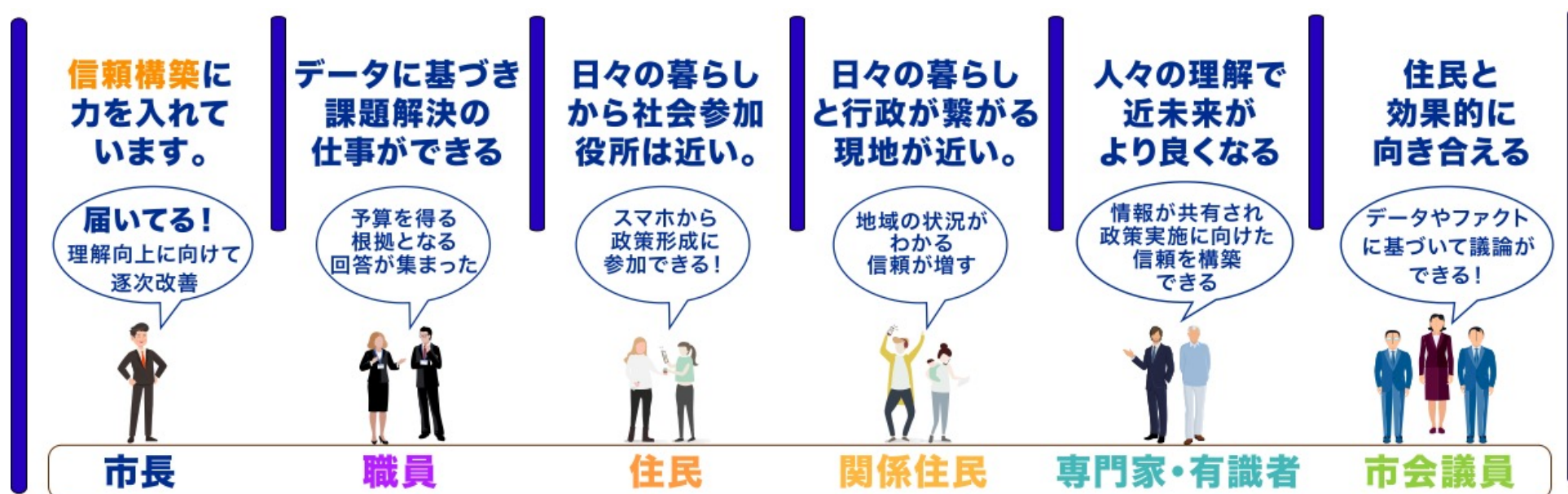
住民視点

自分が回答などの形で参画しても、地域が変わると思えない先入観

- ・ 何を知っておけばいいか**判る**
- ・ 自分の困りごとや心配を伝える方法が**いつもある**
- ・ まわりの人々の意見を知る機会が**ある**

風通しのよい情報環境の実現

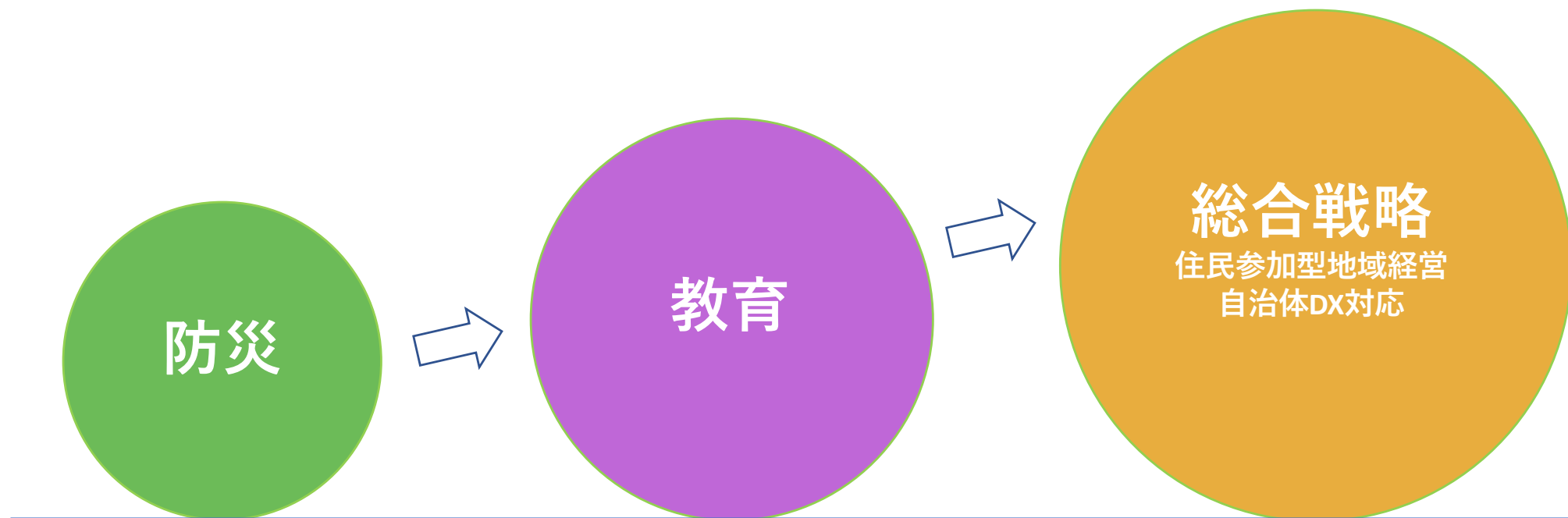
立場を越えてフラットな関係で、一緒に、情報を知り、学び、意思表示する機会を創りましょう。（技術もノウハウもあります）



行政-住民間で信用・信頼が育まれる
地域のヴィジョンが共有される

防災から、他のテーマへの展開

- 市民の方々の生命・財産に直結する「防災」からスタートし、地域の持続性の確立に直結する「教育」といったテーマを用意することで、雪だるま式に、回答参加を増やしつつ、住民と行政と議会と一緒に、データやファクトを踏まえながら、地域課題を確実に解決できる地域経営が実現します。



行政視点のメリット

行政視点

01

住民と地域
コミュニティの
再構築と活性化

02

学び、考える
「人」が増える

03

データ、ファクト
を踏まえた住民の
「声」が聞こえる

04

住民との
「信頼」
が高まる

ビジョンを共有し



持続発展する地域

05

若者の「声」が
聞こえ
地域参加が進む

06

地域課題の
解消、解決が
確実に進む

07

関係住民の
継続的な
地域への参加

08

年代や環境など
属性ごとへの
プッシュ
アプローチ

行政コミュニケーションの最適化

住民視点のメリット

住民視点

01

いつでも
どこからでも
参加できる

02

簡単にデータや
ファクトを知り
学び、考えること
ができる

03

地域の人々の
「考え」を俯瞰
できる

04

行政との
「距離」が
近くなる

ビジョンを共有し



持続発展する地域

05

他の世代など
自分とは異なる
立場の人々の
意見や考えが判る

06

地域課題の
解消、解決を
実感できる

07

いまは住んで
いなくても
地域に関われる

08

自分に合わせた
情報が行政から
届くようになる

理想的な地域参加が気軽に実現

特許取得の独自プロセスとは？ 従来型コミュニケーションとの「違い」

アンケートに学習機能を加えても信頼構築に繋がらない

	 ポリネコ!	広報広聴、アンケート
1.学習機能	あり 回答プロセスで学習して知ることができる	なし 知らなくても回答可能
2.双方向の フィードバック	あり 回答からフィードバックが受け取れる	なし 基本的に読んでおわり、回答しておわり
3.相互理解の設計	あり 共通の予備知識、自分以外の回答を参照できる	なし 予備知識の差、自分以外の回答が見えない
4.議会/議員と	つながる 選択式の議員回答で、一緒に意思表示できる	つながらない 飽くまで参考情報
5.連続性/継続性	あり 回答履歴を参照した設問など、続くやりとり	なし 基本的にその時限り
6.主権者としての 輿論の意思表示	できる 学習を通じた熟慮を経た意思表示が可能	できない 世論≒感情としての意思表示にとどまる
7.関係住民対応	あり 関係人口など市外の関係者の参加が可能	なし 住民票の登録者が基本的な対象

住民-行政間の
信頼が育つ
「信頼形成」を目的においた実施

住民-行政間の
信頼が育ちにくい
量を重ねても次につながらない

特許取得の独自プロセスとは？

従来型コミュニケーションとの「違い」

地域を挙げた議論ができるのは『ポリネコ！』のみ

	 ポリネコ!	従来型 コミュニケーション
認知ギャップへの対応	◎ 参加者が事象のどこに誤解や認知不足を持っているか判り、ギャップを最小化できる	✗ 参加者が事象のどこに誤解や認知不足を持っているか判らず、ギャップに対応できない
囚人のジレンマにならない コミュニケーション構造	◎ 水平構造の情報共有によって 立場を越えた人々の協力が容易に	✗ 滝型構造の上意下達によって 立場を越えた人々の協力は困難
相互理解	◎ 他の回答者の回答やその背景を知るプロセスがあり、相互理解のきっかけがある	✗ 他の回答者の回答やその背景を知る術はなく 相互理解のきっかけはない
『信頼/TRUST』構築	◎ 他の回答者と主要価値共有ができるUXであり 信頼構築が可能	✗ 他の回答者と価値共有ができないため 信頼構築は困難
国会、議会 専門家と一緒に考える	◎ 共通のデータ、ファクトに基づく意思を 相互参照することで、一緒に考えられる	✗ 共通のデータ、ファクトに基づく意思を 相互参照できないため、不可能
連続性/継続性	◎ 継続、蓄積を基本とする設計、かつ 自分を含む人々の回答履歴を参照できる	✗ 記事、番組、調査は基本的に一回きり、また 個々人は自分の意思の履歴を参照できない
共通の目標 ビジョンの確立	◎ データやファクトに基づく意思を、水平構造で 集約できるためビジョン確立が可能	✗ データやファクトに基づく意思を集約 できないため社会のビジョン確立は困難
	◎ 国民的議論 地域を挙げた議論 ができる	✗ 国民的議論 地域を挙げた議論 ができない

特許取得の独自プロセスとは？ 従来型コミュニケーションとの「違い」

スペインや北欧のモデルよりも、日本型の地域経営モデルを確立する好機



ポリネコ



1.学習プロセス	◎ 特許申請技術による学習機能	×
2.相互理解コミュニケーション	◎ 他の回答者の動向、意見等を確認できる設計	×
3.データやファクトを踏まえた意思表示	◎ 学習プロセスと連携してEBPMを実現	×
4.議員と一緒に	◎ 特許技術によるアクティブシンクロナイズ	×
5.簡単に回答	◎ 選択式設問で意思表示が可能	×
6.参加者を増やす仕組み	○ 商工課、GIGAスクールなどとの連携で実装	×
7.各課職員も一緒に	◎ 職員アカウントに対応運用面も対応	×
8.設問設計、課題分析	○ 標準装備	×
9.個別の施策の改善	○ 設問テーマの設定で対応可能	○
10.回答集団ごとの対応	◎ 標準装備	×
11.継続的な関係構築	◎ メールアドレスで継続的繋がりを構築、運用	△
12.ビジョン・政策形成	◎ 標準装備	△
13.導入の気軽さ	△ 関係各位との調整、設問設計など若干手間がかかる	◎

子どもから大人まで、議員も含め立場を越え一緒に学び、考え、意思表示（意見も含め）しながら、継続的に課題解決に参加できる

感度の高い住民が、アイデア、意見を個別の地域課題にオープンに投稿できる

『ポリネコ!』で実現すること まとめ

2022~

住民総ドライバー社会
(国民主権
住民自治の実装
= 日本型DX)

先進的地域経営を具現化
する千曲市様

© IWATA TAKASHI / HammerBird 2021